そして世界が終わった頃に……another・episode

モンスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
そして世界が終わった頃に……ａｎｏｔｈｅｒ・ｅｐｉｓｏｄｅ

【Ｎコード】
Ｎ６３４５Ｚ

【作者名】
モンスター

【あらすじ】
大晦日のあの日……世界中にゾンビが出現し急速に人類は破滅に進む……
これは「そして世界が終わった頃に・・・」の外伝です。

プロローグ（前書き）

外伝作ちゃった……

プロローグ

１２月３１日・大阪

銃弾が次々と敵を倒していく。

俺……黒崎佑樹は、たった一人で敵を倒していった。

俺のことを銃を使っている事から自衛官か警官と思うだろうがそれは違う……

なぜなら俺は普通の学生だからだ。

敵の腹を銃弾が貫いた……だが敵は倒れるどころか何もなかった様に近づいてきた。

俺が戦っている敵は人間ではない……動く死体だ……

（クソ……もう持たない……なら逃げるか……）

急いで回れ右して走り出した。

道路はもの凄い血の匂いがした。

なぜこんなことになったかというとそれは次に話そう……今は逃げる方が先だからな。

プロローグ（後書き）

御意見、御感想、御待しております。

終わりは突然やって来る……

大阪府　大阪市　１２月３１日　ＡＭ８時

いつもと同じ、少し寒い朝が来た。
窓からさす朝の光に起こされた俺……高校生の黒崎祐樹はベッドから出た。
部屋には机、椅子、ベッドが置かれ本棚やその他もろもろ……のごく普通の高校生の部屋だが一つその場に似合わないものがある。
それは、一つの収納棚に入っている。
中には……米軍も採用している銃、Ｍ１６Ａ２と呼ばれるアサルトライフルとその弾薬、グロッグ１７と呼ばれる拳銃とその弾薬が置かれている。
なぜ一般市民がそのような物を持っているかというとこれには分けがある。

まず父と母が元自衛官で幼い頃から自分もそういう訓練を受けている。
そして祖父はある大会社の重役、政府要人や自衛隊のお偉いさんまで多数のコネを持っている。
そして俺たち家族は祖父の家に住んでいる。
家は貴重品ばかりで（俺の部屋を除く）以前強盗に狙われた為（母と父に捕まえられた）念の為各部屋に銃を隠してあるのだ。

服を着替え部屋を出て真っ直ぐに食卓に向かった。
家には今、俺だけが居て祖父と両親は外国に旅行中だ。
普段なら食事は母が作るのだが今日は居ないため自分で作るしか無かった。
ともかく何度か失敗しながらもベーコンエッグを作った。

味については語らないでおこう……

食べ終わると外に行く準備を始めた。
どこに行くかって？　俺の通う高校だよ。
理由は宿題を忘れたからだ。
ともかく家を出て自転車に乗った。
そして高校へと向かった。

ＡＭ９時　高校前
（はあ～やっと着いた。幾らなんでも遠すぎだろ）

２０～３０分もかけて高校に着いたがよく考えると今日は大晦日、
高校は閉まっている。

（やられた……）

とりあえず宿題の事は忘れ家へ帰り始めた。

（クソ～無駄足だったじゃねーか）

ＡＭ９時１０分
ふとペダルをこぐのを止めた。道路に人だかりが出来ていたからだ。
気になって見に行くことにした。

「どうしたんですか？」

近くにいた中年の男性に声をかけた。

「それが……そこにマンションがあるだろ。どうやらそこから飛び
降り自殺したらしい」

丁度その時サイレントともに救急車がやって来た。
人をかき分けて中心に行くと頭から血を流した女性が倒れていた。
その周りは女性の血で水たまりの様になっている……
救急隊員が人をかき分け進んできた。

「どいてください」

群衆を下がらせ脈を測り始めた。

「脈がない」

救急隊員がそう言った瞬間、女性が目を開けた。

「大丈夫ですか？」

隊員が言うと女性は上半身を起こしその隊員の方を見た。
嫌な予感がした……
次の瞬間女性が隊員の喉に喰らいついた。
隊員の首から噴水の様に鮮血が飛び散り……辺りは悲鳴で包まれた
……

終わりは突然やって来る……（後書き）

ご意見、ご感想、お待ちしております。

人（ゾンビ）殺し……

あまりの光景に一瞬、目を背けてしまった。
再び見ると他の救急隊員が女性から仲間を引き離していた。
そして仲間の脈を測る……

「死んでる……」

死んだと言われた救急隊員の目が開いた。

（まさか……）

嫌な予感がした。
案の定、その隊員は仲間の隊員の腕を噛んだ。

「やっ、やめろ！　急にどうしたんだ！？」

既にほとんどの人がその場から離れていた。

（俺も逃げたほうが良いな……）

急いで自転車に乗り家へ向かった。
人間、いざとなれば凄い力が出るんだなとこの時は痛感した。
あっという間に家へとたどり着いた。
玄関のドアを開け、まっ先にリビングへと向かった。
広々としたリビングのソファーに座りテレビをつけた。
映し出された映像を見ると唖然とした……

「現在、私は大阪府、天王寺動物園前に居ます！！　先程ここで殺人が起きました！！
会社に通勤途中の男性を、ホームレスの男性が襲いました！！
この事件で男性は死亡しましたが、驚くべきなのは男性の体中から噛み傷が合ったことです」

（まるでさっき見たのと同じじゃないか……）

再び画面に集中した。

「ホームレスの男性はその後、通行人多数を襲って一時パニックに陥りました」

その時、リポーターの女性の後ろから全身血まみれの男が近づいてきた。
カメラが少し後退した。

「どうしたの？」

リポーターが振り返ると男はすぐ目の前に居た……
リポーターの首を噛み切り、中継は途絶えた……

そこまで見てテレビを消した。

（これじゃあまるでゾンビじゃないか……）

一旦、冷蔵庫から水を取り出し飲み終えると再びテレビをつけた。
今度は違う局にした。広島のどっかの公園からの中継だった。
リポーターの後ろには警官が数名いる。

「え～、たった今広島市に厳戒態勢が敷かれました。既に暴動による死者は数百人にも及びます」

その時警官の近くの茂みから腕が捻じれて全身血まみれの男が現れた。

警官が拳銃を向けた。

「あ、あれです！」

カメラが男を映した。

男はそんな事を気にせず警官に向かっていった。

警官は「止まれ！」と言ったがそれでも男は近づいていく……

警官は「仕方無い……」と言い、男の後ろに回り込み、手に手錠をかけた。

だが……男は首を後ろに捻じ曲げ警官の肩に噛みついた……

再びテレビを消した……その時リビングの窓が割れた。

そこから血塗れの男性……ゾンビが入ってきた。

ゾンビは俺を見つけると腕を伸ばし近づいてきた。

だが慌てることなくソファーの下から拳銃を取り出した。

これは、シグＰ２２０と呼ばれる拳銃で９発装弾されている。

以前も説明したがこの家には至るところに銃器が隠されている。

ゾンビの足に向け発砲した。

銃声が鳴ったが、まあ良っかということにした。

９ｍｍ弾は正確にゾンビの右足を貫いた。

だがゾンビは膝を着いただけで右足を引き摺りながら近づいてきた。

（これが映画と一緒なら……だが俺に人を殺せるのか……）

覚悟を決めた。銃口をゾンビの額に向け引き金を引いた。
９ｍｍ弾が額を貫き、ゾンビは崩れ落ちた。
助かったが、初めて人を殺したことに罪悪感を抱いた。

（これからどうすれば良いんだ……）

人（ゾンビ）殺し……（後書き）

御意見、御感想、御待しております。

大晦日なのにこれは無いだろ～（前書き）

題名はふざけてますね……

大晦日なのにこれは無いだろ～

ＡＭ１０時

あれから必死にテレビやらパソコンで状況を探った。その結果がこれだ……

第一に、日本中で死者が蘇っている事。これは、確認済みだ。

第二に、一番被害が多いのは九州地方で死傷者は１万人を超えているらしい。（未確認）

第三に、自衛隊が出動して日本各地に散っている事。（未確認）

取り敢えず、二階の物置（武器庫）に向かった。

今持っているシグＰ２２０だけでは心細い。

武器庫には、米軍の使うＭ１６Ａ２アサルト・ライフルや自衛隊の使う５，５６ｍｍ機関銃ＭＩＮＩＭＩ等。

他にも多数の武器があるが取り出したのは上記の武器とレミトンＭ８７０と呼ばれる散弾銃。

この３つの武器の弾薬も取り出し、その次に家中の食料を集めた。

食料は、出来るだけ保存の効くもので、カップラーメン等を選んだ。

そして外に出てみることにした。

上着を着て念の為シグＰ２２０を懐に隠し外に出た。

吐く息が白くなるほどの寒さの中、血の匂いがした。

それもそのはずだろう……家の前の道路の真ん中でゾンビ（ネット上で言われていた）が、誰かの死体を喰い漁ってるからだ。

死体は、性別さえ分からない状態だがゾンビが誰かは分かった。

（あれは……近所の奴じゃないか）

いつこタバコを吸っていて、俺の事を影で悪口を言ってる男……
考えるだけでイライラしてきた。
シグＰ２２０を取り出し、男性に気づかれる前に２度目の死を与えた。
銃声に気づいたのか、近所の住民が出てきた。

（やべ……）

急いで家へ戻った。
中に入ると３階に向かった。３階には、広いテラスがあって良くそこでくつろいでる。
だが今回は、そんなことが目的では無かった。外の様子を見るためだ。

上から見た光景は凄まじかった……
各地で火災が起きている……

（何だよこれ……朝は普通だったのに……）

一階に戻り、これからの計画を立て始めた。

（さて……これからどうするか……）

気づくと異常に腹が減っていることに気づいた。
数ある食料からカップヌードルを選び食べ始めた。

（考えるのはその後だ……）

食べ終わると再び考えを巡らせた。

（さて……二回目だがこれからどうしよう？　取り敢えず仲間を増やすか……）

という訳で友達に電話したが聞こえてきたのは機械の声だった……

（クソ！！　こうなればやけくそだ！！）

シグＰ２２０を隠しながら再び外に出た。
外は地獄絵図だ……サラリーマンから普通の主婦、子供までもがゾンビに追われ走っていく……
その時、一人のゾンビと目があった。だがゾンビは気づいていないのか素通りして行った。

（待てよ、今俺を見たくせになぜ素通りしやがった？）

これは、今まで見た映画等の知識を照らし合わせ、ゾンビは目が見えないのだろうという結論に至った。
その時、女性の悲鳴が聞こえた。

（何だ！？）

シグＰ２２０を取り出し急いで悲鳴が聞こえた場所に行ってみた。
途中のゾンビたちは近づかない限り見つかる心配も無く通り道に居るのなら二度目の死を与えた。
そしてようやく悲鳴が聞こえた駐車場に着いた。
そこに数人のゾンビに囲まれた俺と同じぐらいの年の女性が居た……

大晦日なのにこれは無いだろ～（後書き）

御意見、御感想、御待しております。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6345z/

そして世界が終わった頃に……another・episode

2011年12月29日06時48分発行